

古都・京都の街並みを背景に、
双方の世界を行き来する
一人の少年のゆらめきときらめき。

日常と非日常、

夢と現実――

原作を超えられました。
繊細で美しい、触れることをためらうような
「工芸作品」を観てるようでした。
――タナカカツキ（マンガ家）

京都生まれ、京都市育ちの17歳、赤田孝豊。高校2年生である彼は、思春期ならではの同級生との別れや喧嘩、そして幼馴染の少女との初恋を経験する。日常と非日常、夢と現実―古都・京都の街並みを背景に、双方の世界を行き来する一人の少年のゆらめきときらめきが、鮮やかに紡ぎ出されていく。

主人公・孝豊を演じるのは、『ぼんとリンちゃん』で注目を浴び、17年には『PとJK』『散歩する侵略者』などの出演作が相次いで公開される高杉真宙。また、幼馴染・みことを演じるのは、『サバイバルファミリー』『陽だまりの彼女』のほか、17年10月から放送のNHK連続テレビ小説『わろてんか』でもヒロインを務める、葵わかな。



原作は「コップのフチ子」で一躍時の人となったマンガ家・クリエイターのタナカカツキによる処女作。監督は映像化を切望していた小林啓一（『ももいろそらを』『ぼんとリンちゃん』）。長期にわたる京都ロケを敢行し、花街の祇園、鴨川を渡る四条大橋、五山送り火（大文字）といった、おなじみの風景のほか、寺院やライブハウス、路地裏など、貴重且つリアルな京都も切り取り、アニメーションを駆使するなど大胆な演出によって、原作の世界観を忠実に再現している。

どこか懐かしくもあり、どこか新しい、そんな青春映画の枠にとらわれない、観る者の心に深く刻まれる珠玉の名作がここに誕生した――。



11.4(土) ゆらめき
ロードショー!

四条烏丸下ル西側COCON烏丸3F
京都シネマ
☎075(353)4723

阪急・梅田駅より徒歩で5分/十三駅下車南口より3分
第七藝術劇場
大塚市大塚区十三本町17-27サンボードシティ6F
☎06-6302-2073
www.nanagei.com 7_gel

神戸元町商店街4丁目
元町映画館
078(366)2636 www.motoei.com

高杉真宙
葵わかな 清水尋也
金子大地 桃月庵白酒 佐津川愛美 田中壮太郎

監督・脚本・撮影 小林啓一

原作：タナカカツキ『逆光の頃』（講談社『モーニングKC』所載）
製作：間宮登良松 | エグゼクティブプロデューサー：加藤和夫
プロデューサー：中野剛 原田博志 | ラインプロデューサー：松嶋翔
録音：日高成幸 | 衣裳：野口吉仁 内山さやか | ヘアメイク：北村あきな | 方言指導：平松実季
製作：東映ビデオ | マイケルギオン | 宣伝協力：Prima Stella | 撮影協力：京都市メディア支援センター
配給：SPOTTED PRODUCTIONS | カラー | 5.1ch | ビスタ | 66分

©タナカカツキ/講談社・2017 東映ビデオ/マイケルギオン



重ね合わせるのです。
いつかの僕と――ここにいる僕を。



PG12
映 示
120803



⑬くろ谷 金戒光明寺

新選組発祥の寺、本陣を置いたことで知られる寺院。若き頃の父の喧嘩シーンや、雨の中、石橋を走って渡る孝豊のシーンを撮影した場所（左京区黒谷町121）



⑭旅館 富久家

みことの家として使われたのは、清水寺近くにしたずむ京都生粋の町家風片泊まりの旅館。夜、孝豊がみことを家まで送り届けるシーンで登場する（東山区祇園下河原上弁天町443-3）

⑮八坂通

冒頭、孝豊の通学路として登場するのは、法観寺・八坂の塔がある八坂通。原作の雰囲気再現するため、人通りの少ない朝8:00から撮影された（東山区清水八坂上町付近）

⑯東山中学・高等学校

孝豊たちの高校のロケ地は、私立男子校の東山高校。周辺には、南禅寺や永観堂、哲学の道などの観光スポットもあり、少し足を伸ばせば銀閣寺にも行ける（左京区永観堂町51）



⑩四条大橋

河原町と八坂神社を結び、観光客も多く行き交うスポット、四条大橋。ラスト、孝豊とみことがデートの待ち合わせをするシーンで使われた

⑪しぐれ茶屋「侘助」

孝豊の姉、五月が営む小料理屋「月雲」のロケ場所。祇園白川南通に店を構える京料理のお店で、体に優しくヘルシーなおばんざいは若い女性に大人気（東山区元吉町70）

⑫祇園白川南通

遅刻寸前の孝豊が自転車で駆け抜ける通り。彼がすれ違う舞妓のひとりを演じるのは、監督の前作『ぼんとリンちゃん』の「ぼん」こと佐倉絵麻（東山区元吉町70）

⑬花見小路・建仁寺前

静寂に包まれる禅寺、建仁寺。紅葉スポットとして知られるほか、美しい庭園を有することで知られている。この寺の前で公平が孝豊をライブに誘うシーンが撮影された（東山区小松町584付近）

⑭石堀小路

一輪車に乗った女の子が細い路地を通り抜けるシーンは、石堀小路で撮影。両脇には町家が並び、石畳が敷き詰められた情緒たよう空間だ（東山区下河原町480付近）

⑮真正極楽寺（通称：真如堂）

夏には鮮やかな緑のみもじが境内の至るところで見られる。日本国内で最初の本格的劇映画と言われる『本能寺合戦』（牧野省三監督）の撮影も行われ、「京都・映画誕生の碑」が境内に設立されている。孝豊とみことの帰りのシーンで使われた（左京区浄土寺真如町82）

⑥京まちや平安宮

山中油店の向かいにある約100年の町家。孝豊の家のロケ地として使われ、「京まちや平安宮」代表の山中恵美子さんが孝豊の母役を演じた（上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町517）

⑦東寺

小島との乱闘後、みことと手をつないで歩く孝豊を見守るかのように映るのは、京都のシンボル、五重塔。門前で買える東寺餅は、なめらかなこしあんが詰まった逸品（南区九条町1）

⑧ライブハウス 磔磔

閑静な住宅街に囲まれた老舗ライブハウス。関西を代表する有名バンドを数々輩出し、バンドメンバー役の片山プレイカース&ザ☆ロケンローバーティーマも常連（下京区筋屋町139-4）



⑨三条大橋

孝豊と公平が川遊びするシーンは、三条大橋の下で撮影。嵐山の渡月橋とならび京都を代表する橋の一つとして知られる。夏に名物の川床（納涼床）がズラリと並ぶ光景は壮観



①神護寺

京都屈指の紅葉の名所。参道から楼門までは350段の石段があり、境内には3000本もの紅葉が広がる。孝豊と小島の喧嘩シーン、孝豊が石段を見上げるシーンで使われた（右京区梅ヶ畑高雄町5）

②二尊院

小島が雨宿り中のシーンを撮影。紅葉で敷き詰められた参道が続き、“紅葉の馬場”と呼ばれている（右京区嵯峨二尊院門前長神町27）

③常寂光寺

雨の中、孝豊がカバンを頭に掛けて走るシーンの撮影場所は、京都嵯峨野の小倉山の中腹にある寺。常に楓などで光が寂しい風情から、この名前がつけられたと言われる（右京区嵯峨野小倉山小倉町3）

④上七軒

最も古い花街。春は上七軒歌舞練場で、芸妓や舞妓たちによる「北野をどり」が開催される。試験にできなかった孝豊にみことが解答を渡すシーンは、この通りで撮影された（上京区真盛町703付近）



⑤山中油店（京まちや平安宮）

ライブ後、孝豊と公平が歩いているシーンで映るのは、全国的にも珍しい油の専門店。1日1組限定の貸切宿「山中油店 町家ゲストハウス」も人気（上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町508）